



自治会では長い間、自治会館実現の可能性を探ってきました。地区内には金森わさび田児童公園やみずき山ふるさとの森などの敷地はありますが、公園緑地以外への転用は法的にも不可能なことが確認されました。様々な交渉を重ねる中で、町田市から現在のふれあいもみじ館の敷地の一部を集会施設の建設用地として提供できるとの連絡があり、実現の可能性が見えてきました。

集会施設の新設は、自治会にとって大きな転機になるでしょう。自治会館設立検討委員会は自治会員の皆さんに会館設立に関する情報発信を行い、皆さんのご意見により会館設立の方向性を見つけていきたいと考えています。この機会に今の自治会の運営などを点検し、課題を解決していくきっかけにしていきたいです。

自治会館設立検討委員会からの広報誌「いずみに集う第1号」では、自治会役員会及び、街づくり委員会で今まで議論されてきた自治会が抱える課題と自治会館設立で解決ができることについて、確認をしましたのでお知らせを致します。

事務局機能の新設

役員会は1~16班の各班長が兼務する形で副会長、書記、会計、行事、環境、防災、防犯、街づくりの役員業務を遂行しています。かつては手書き原稿をガリ版で印刷という時代もありましたが、今はパソコンやスマホを利用する機会が多く、得意な人と不得意な人との差が大きくなっています。

役員は毎年4月に交代し、任期は1年です。年間の一通りの役割をこなして仕事の中身が分かってくる頃に交代時期がやってきま

す。多くの会員が少しずつ力を出し合い、運営することは、特定の人へ仕事が集中することが避けられると共に、自治会への理解を深めることにもつながっていますが、一方では会長宅をはじめ、これまでの自治会関連資料が個人宅に保管されていることも課題のひとつです。自治会というひとつの組織として、どのような書類を何年間保管するといった文書管理方針も整えていく必要があるでしょう。

さらに、自治会活動で利用している機材も役員の引き継ぎとともに受け継がれてきましたが、自治会全体でどんな機材を所有しているのかさえ把握されていません。文書作成のためのパソコン、プリンター、インクなど個人の機材に大きく依存している事も課題となっています。

このような現状を打開し、効率的な運営をするためには、事務局機能を強化し、運用ルールを整備していく必要があります。見直し作業に伴って、これまでの役員の配置や個々の役割分担も見直す必要があるかもしれません。効率的な運営ができれば作業量は削減されることが期待されます。

集会施設の設置によって事務局機能を持たせる事で上記課題の解決につながると考えられています。

集会施設を舞台に新たな活動を

自治会地域には役員会の他、いずみクラブ、子ども会、各種同好会が活動しています。今までは活動の打ち合わせに個人宅や喫茶店等を利用する事が多くあり、時間や金銭的な負担も課題とされています。集会施設が出来ればこれらの事が解決されるとともに、新

【裏面へつづく】

しいコミュニティ活動の拠点としての活用が期待されます。

新しい活動については、会員皆さんの多くのご意見をお願いします。

防災力の強化

防災面では、最近 10 年の自主防災隊による積極的な活動によって、防災力はかなり

強化されています。しかし、わさび田公園に設置する防災隊本部はテント(写真)です。大規模災害発生時には数ヶ月運営する必要がありますが、風雨や、夜間の冷え込みなどをしのぐことは難しい課題があります。集会施設によって、防災面でもこれまで以上の備えができ、運用上の安全性も高まると考えられています。



防災隊本部 現在の装備品

会館設立について皆さんのご意見、ご質問を是非お願いします。
役員会へ直接、班長さん経由でも構いません。
近く会館設立について皆さんへアンケートも実施予定です。
次号以降では会館施設の概要、建設／運用費用等もお知らせして行きます。
会館設立、運営について皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。